

## 紙・印刷機械の 技術動向と取組み

取締役 木 山 信 雄  
紙・印刷機械事業部長



紙・印刷機械事業部のお客様である製紙・紙工業界、印刷業界は国内外の不況長期化により、業界全般では大変厳しい状況下にありますが、逆境の中勝ち抜こうとされているお客様にとって、私どもの製品が真の力となれるよう、個々のお客様毎に最適な提案を行う事業展開を目指しております。

そのため、当事業部は2001年4月より、お客様のご意見を頂く『KIK（お聞きする）運動』を展開しており、新製品の発表会などを通じ『三菱重工は変わった。』との好評を次第に頂けるようになってまいりました。

本特集号では、従来の学会的な技術情報の提供のみではなく、お客様へ、新製品のコンセプトを、分かりやすくお知らせすることで、営業最前線でお客様との話題にできるようにとの方針の基で編集をいたしました。

今後ともお客様と双方向の意見交換を大切にしながら開発を促進し、お客様の期待にこたえる製品を送り出していきます。

### 製紙機械・紙工機械

当社はこれまで、様々な紙種に対し、お客様からご要求のある高度な紙品質を満たした200台を超える製紙機械を供給してまいりました。技術開発面では、2000年6月に米国BELOIT社から“製紙機械に関する特許及びその他の知的所有権”を取得し、同社の豊富な技術資産を引き継ぐ一方、昨年秋には当社広島研究所紙・印刷研究センター（三原）のパイロットマシンにて当社独自技術による世界最先端の製紙機械（MJシリーズ）を商品化いたしました（図1）。

今後も、更に高生産性、高品質、省力化に向けての新たな技術革新を進め、お客様に喜んでいただける製品の商品化開発を継続してまいります。

紙工機械では、高速・広幅化が進む中で、投入したSHコルゲータを基に多オーダ高速生産と高品質化に対応した商品化を行い、製函機は高速化とともに、折れ精度を向上させる開発を進め、箱品質での差別化を図っております。



図1 MJシリーズ

### 印刷機械

社会全般的にデジタル化が進み、広告宣伝媒体の多様化から印刷需要にも変化が見られ、印刷業界全般には短納期化と多品種小ロット化が一層加速しています。

加えて印刷単価が下落したまま回復の兆候が無く、印刷機械に対しては生産性の向上と損紙低減、保守費用低減が今まで以上に求められており、私どもはそれらにこたえる新製品の開発を行ってまいりました。

枚葉印刷機では2001年2月にメカニズムやデザインを一新したNew DAIYAを発表。印刷準備時間の短縮や損紙の低減による高い生産性を実現し、上流工程とのデジタル情報インターフェイスを強化いたしました。この新型機に加え、両面印刷分野でも新たな機種を開発を行っており、今後製品群に加えてまいります。

商業用輪転機では2001年8月に、国内初のフルシャフトレス駆動（高同期精度の分散モータ駆動）LITHOPIA BT2-800 SSSを発表、印刷精度の向上、版交換時間の半減、電力や騒音の大幅な低減を実現。続いて2002年2月には最新鋭のシャフトレス商業用輪転機New LITHOPIA MAX BT2-1000（商品名MAX）を発表いたしました。

新聞輪転機では既に国内外で多数の実績の有るフルシャフトレス駆動の技術をベースに、世界最高速18万部/時の生産性を誇るDIAMONDSTARを開発し、2001年11月のJANPS（展示会）にて発表いたしました。（図2は商業輪転機New LITHOPIA MAX BT2-1000）

当事業部は、紙と印刷の両方を研究開発できる世界唯一の会社であり、製紙・紙工・印刷業界のお客様にそのメリットを知っていただき、最大限に活用いただきながら、一体となって進む事業部を目指し、これからも、引き続き技術と製品の開発に努める所存ですので、今後とも皆様の一層のご指導とご鞭撻をお願い申し上げます。

（ホームページアドレス <http://www.mhi.co.jp/mihara/>）



図2 商業輪転機New LITHOPIA MAX BT2-1000